

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究
分担研究報告書

「小児がん拠点病院における看護師の業務実態調査

－相談支援センター看護師からの報告－

研究分担者 井上玲子 東海大学健康科学部看護学科 准教授

研究要旨：小児がん拠点病院（以下；拠点病院）で、相談支援センターに勤務する看護師の業務実態を明らかにするため、8施設の看護師より質問紙調査を行った。項目は、相談支援センターに定められた7つの業務を5段階の実施程度で調査し、ほぼ全ての看護師が患者の発達・教育及び療養上の相談、家族への相談の2項目を実践していた。さらに3施設の看護師に、役割、業務上の困難、相談支援センターのビジョンを聞き取り調査した。看護師は、専門職間の橋渡しや相談業務を主な役割とし、相談支援センターとしての体制が未完成なことに困難としていた。今後のビジョンは、小児がん看護の教育、業務分担等体制の整備であった。今後相談支援センターの看護師は、多職種と連携しつつ、看護師ならではの役割を明確にし、実践していくことが望まれる。

A. 研究目的

拠点病院の相談支援センターに勤務する看護師の業務実態および今後の課題を明らかにする。

（倫理面への配慮）

研究者の所属施設の倫理審査会指針を遵守し、個人の自由意思、秘密保持に配慮した。

B. 研究方法

拠点病院 15 施設の看護部長に電話で相談支援センターの看護師配置の有無を確認。配置のある施設に質問紙を郵送した。調査項目は小児がん拠点病院等の指定要件で相談支援センターに定められた7つの業務について、5段階で回答を求め集計した。さらに3施設の看護師には、看護師の役割、困難、ビジョンの3項目を面接で聞き取り内容分析した。

C. 研究結果

1. 拠点病院 15 施設のうち、看護師の配置があった9施設へ調査票を送付。8施設より回答が得られた。看護師は、7つの業務のうち「患者の発達・教育及び療養上の相談」「家族への相談」を主に実践していた。「診療に関する一般的な情報提供」「地域の医療体制に関する情報提供」「セカンドオピニオンの紹介」はほとんど実践せず、医師の主な業務となっていた。「学校・就労相談」「連携施設との対応」

もほとんど実践せずソーシャルワーカーの主な業務となっていた。

相談支援センターで業務を行っている他職種の役割			
1. 小児がん診療に関する一般的な情報提供	看護師	医師	MSW
小児がんの一般的な標準的治療方法の情報提供	2	4	0
小児がんの新たな治療の情報提供	0	7	0
長期的治療体制（フォローアップ体制）の情報	4	2	0
2. 地域の小児がん医療体制の情報収集、提供			
地域連携施設の治療設備や治療方法の情報収集	0	3	2
地域連携施設の体制の情報収集	0	2	3
地域連携施設の情報を患者家族へ提供	0	2	4
地域連携施設への提供	0	2	5
3. セカンドオピニオンについて紹介			
他施設へのセカンドオピニオンの紹介	1	6	1
他施設からのセカンドオピニオン受け入れ	1	4	1
4. 小児がん患者の発達・教育及び療養上の相談			
患児の身体・心理・社会的アセスメント	5	1	0
患児の病態や治療方針についての相談	3	3	0
入院中の療養生活についての相談	3	2	0
退院後の療養生活についての相談	3	1	0
学校教育問題に関する相談	3	0	3
就労に関する相談	1	1	4
医療費・生活費に関する相談	1	1	7
在宅サービスに関する情報提供や調整	1	1	6
緩和医療・終末期医療に関する相談と援助	3	0	5
5. 連携施設との対応			
連携施設からの小児がん患児受け入れの調整	0	6	1
連携施設への小児がん患児紹介の調整	0	5	4
患児の療養に関する医療機関との情報共有	0	3	6
患者の療養に関する保健センターとの情報共有	1	0	5
患者の療養に関する在宅サービス施設との情報共有	1	1	6
6. 医療機関の相談支援に関するサポート			
地域医療機関への相談支援に関するスーパーバイズ	1	1	2
地域医療機関との相談支援に関するネットワーク作り	1	1	2
7. 家族への相談			
家族が語る相談内容のアセスメント	8	0	0
家族員の身体・心理・社会的アセスメント	8	0	0
家族が意思決定する際の相談支援	6	2	0
他の家族成員に関する相談支援	6	2	1
患者家族会との情報の共有	3	1	0
他部門、他機関と連携、家族・相談者の対応を依頼	7	0	0
延べ人数（n=8人）			

2. 回答の得られた8施設のうちの3人の看護師より、聞き取り調査を実施した。逐語録より看護師の役割に関する発言は、相談業務が最も多く（32.7%）、次いで専門職間の橋渡し（25.5%）であった。看

護師が抱える困難では、相談支援センターの体制が未完成なこと（38.2%）、役割が確立されていない（27.0%）であった。これからの相談支援センターのあり方やビジョンは、業務分担等体制の整備（27.4%）、小児がん看護の教育体制の確立（22.3%）であった。

D. 考察

相談支援センターの看護師は多職種との連携の中、看護師特有の療養の相談や家族の相談をアセスメントしながら実践していた。今後、看護師業務の役割を明確にし、体制整備が望まれる。

E. 結論

相談支援センターの看護師は、主に療養、発達の相談に多くかかり、地域連携はソーシャルワーカー、医療情報の提供は主に医師が実施していた。相談支援センターの看護師は、役割が確立されていないことに困難を抱え、役割モデル作りに取り組んでいた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし